

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究
研究代表者	清家 章 (岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、ミュオンラジオグラフィという新手法と三次元精密計測を組み合わせた王陵級巨大古墳の非破壊的調査研究手法を確立し、それを駆使して吉備三大古墳の構造を解明しようとするものである。あわせて、考古学的分析と胎土分析を有機的に組み合わせた埴輪の研究も行い、吉備勢力とヤマト王権の相互関係の解明に寄与することを目指している。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>王陵級巨大古墳の非破壊的調査研究手法の確立は、発掘調査が許可されていない我が国の多くの王陵級巨大古墳の構造の解明と、それによる古代史研究の進展に画期的貢献をもたらす可能性が高い。また、開発される非破壊的調査研究手法自体の国際的な普及及び学術的貢献も期待できる。</p>